

検疫の話題

日本向けオランダ産切花の輸出前検査

近年、航空機によるオランダ産切花の輸入量が増加の傾向にあつたが、これに伴つて、切花の植物検疫をその精度を損なわず、かつ、スピーディーに実施する必要が生じてきた。このため、日本とオランダの植物検疫専門家間で具体策が検討されてきたが、昨年6月、日本の植物防疫官が現地で切花の検査を行う措置が講じられ、同年9月から検査が開始された。日本から派遣された植物防疫官は、オランダのアルスメール市にある花市場(世界最大の花市場)及び関連施設で切花の検疫に当たっているが、そのプロセスの概略は次のとおりである。

①日本向けの切花は先ずオランダの植物検疫機関により輸出検査が実施され、輸出検疫証明書が発給され、②続いて日本の植物防疫官により検査される。③検査・確認を終えた切花は、その輸出検疫証明書の裏面に日本の植物防疫官により、検査・確認の年月日と植物防疫官名(署名)を付記される。④その後、切花は輸出者により所定の表

示が行われ、⑤輸送途中の害虫の再汚染防止のために封印され、空路日本へ輸出される。

こうして日本の空港に到着した切花は、空港で植物防疫官により、植物検疫証明書及び荷口のチェック、荷口の抽出検査等の輸入検疫が行われ、通関手続を経て国内流通ルートに移される。現在、オランダ産切花の植物検疫は、極めて的確かつ円滑に実施できている。なお、オランダから輸入される主な切花は、フリージア、ネリネ、ユリ、カーネーション、バラ、チューリップである。



海外のニュース

ミバエに寄生するネジレバネ

ネジレバネ類は微小～小型の昆虫で、完全変態又は過変態を行い、多くは他の昆虫特に膜翅類と同翅類に寄生して生活する。成虫は一般に、雄では前翅が棍棒状又は平均棍棒状に退化し後翅は大きく扇状で縦にたたまれ、雌では無翅のウジ虫形で頭胸部は融合し、形態的にも特異なグループである。

1985年にDrew and Allwood*により、オーストラリアから新属・新種(*Dipterophagus daci*)を含むネジレバネ目の新科Dipterophagidaeが記載された。本種はネジレバネ目の中では双翅目の寄生として記載された最初の種である。*D. daci*は下記の10種のミバエから記録されている：*Dacus aguilonis*(May)、*D. bellulus* Drew、*D. cacuminatus*(Hering)、*D. decurtans*(May)、*D. mayi* Hardy、

D. neohumeralis Hardy、*D. peninsularis* Drew、*D. tenuifascia*(May)、*D. tryoni*(Froggatt)及び*D. sp. n.*(*musae*に近い種)。

寄生部位はミバエ成虫の腹の中で、その状況は、1頭の寄主に対して2～6頭のネジレバネの成虫が同時に寄生している場合(多寄生)が普通である。なお、生態は不明である。オーストラリアでは90種以上のネジレバネが知られているが、10種ほど記載されているにすぎない。(害虫課 一戸文彦)

*Systematic Entomology (1985)10: 129-134.

発行所	横浜植物防疫所
	〒231 横浜市中区北仲通5-57(横浜農林水産合同庁舎) ☎045(211)2299
発行人	小畠琢磨
編集責任者	北島克己
印刷所	内村印刷株式会社
	〒231 横浜市中区末吉町1-12 ☎045(261)7981